



22:39 それからイエスは出て行き、いつものようにオリブ山に行かれた。弟子たちもイエスに従った。

22:40 いつももの場所に来ると、イエスは彼らに、「誘惑に陥らないように祈っていないかい」と言われた。

22:41 そして、ご自分は弟子たちから離れて、石を投げて届くほどのところに行き、ひざまずいて祈られた。

22:42 「父よ、みこころなら、この杯をわたしから取り去ってください。しかし、わたしの願いではなく、みこころがなりますように。」

22:43 「すると、御使いが天から現れて、イエスを力づけた。

22:44 イエスは苦しみもだえて、いよいよ切に祈られた。汗が血のしずくのように地に落ちた。」

22:45 イエスが祈り終わって立ち上がり、弟子たちのところに行ってご覧になると、彼らは悲しみの果てに眠り込んでいた。

22:46 そこで、彼らに言われた。「どうして眠っているのか。誘惑に陥らないように、起きて祈っていないかい。」

22:47 イエスがまだ話をしておられるうちに、見よ、群衆がやって来た。十二人の一人で、ユダという者が先頭に立っていた。ユダはイエスに口づけしようとして近づいた。

22:48 しかし、イエスは彼に言われた。「ユダ、あなたは口づけで人の子を裏切るのか。」

22:49 イエスの周りにいた者たちは、事の成り行きを見て、「主よ、剣で切りつけましょ

うか」と言った。

22:50 そして、そのうちの一人が大祭司のもべに切りかかり、右の耳を切り落とした。22:51 するとイエスは、「やめなさい。ここまでにしなさい」と言われた。そして、耳にさわって彼を癒やされた。

22:52 それからイエスは、押しかけて来た祭司長たち、宮の守衛長たち、長老たちに言われた。「まるで強盗にでも向かうように、剣や棒を持って出て来たのですか。」

22:53 わたしが毎日、宮で一緒にいる間、あなたがたはわたしに手をかけませんでした。しかし、今はあなたがたの時、暗闇の力で

イエス様は孤独を感じられたでしょう。これほどの恐怖と苦しみで打ち勝ち祈りをなさっていたのに、弟子たちは「眠り込んでいた」のでした。確かに人間の肉体は弱いもので、信仰に自信があるような者でも、誘惑に陥ることがあるのです。弱さを克服するには「祈って」いるしかないことを覚えましょう。神の力によって生きる以外ないです。

イエス様はご自分を捕えようとする者に「耳にさわって彼を直して」やられました。決心のついた人は心に余裕があるので、優しい愛の人になれるのです。主に従う決心をしましょう。

イエス様のこの落ち着きは、ゲッセマネの園で祈った結果です。祈りは単にお勤めやルーティンワークではありません。生ける神様との生ける交わりです。心を変えて、主の思いで生きるために心を定めるような祈りをしましょう。そのような祈りに導かれましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたなどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

